二十一世紀を視野に入れた創造性豊かな人材育成を目指して

県立大学整備事業

県では現在、①社会科学系新学部の増設②大学院の設置③男女共学への移行の三つを柱とした、熊本女子大学の整備を進めています。また、これに伴い大学の施設面の整備も行っています。

①社会科学系新学部の増設

学部の人材育成の目的

国際化、高度情報化、高齢化の進展といった二十一世紀を間近に控えた現代社会を見据えて、幅広い視野を持ち、問題を的確に発見し、分析し、解決していくことのできる、個性的で創造性に富んだ実践的な人材の育成を目的とします。

学部の特色

行政、経営・経済等の社会科学系の学問を学ぶと共に、情報化や国際化に対応できる幅広い知識の修得を目指します。

開設の時期及び入学定員

現在、平成六年四月開設に向け準備を進めています。定員は三百名(予定)。

②大学院の設置

創造的な研究者と高度な専門的職業人を育成するため、学部に順次、大学院を設置します。設置時期については次のとおりです。

文学研究科　平成五年四月
生活科学研究科　平成六年四月以降
新学部の大学院　平成十年四月以降

③男女共学への移行

社会科学系新学部の増設を機に、全学的に男女共学へ移行します。このため、現在の「熊本女子大学」の名称を新しい大学名に改めることになりました。大学名については、現在、県民の皆様から応募いただいた名称を参考に選定作業を進めています。

県立大学整備構想

- 文学部
  - 国文学科(40名)
  - 英文学科(40名)
- 社会科学部(仮称)
  - 社会科学科(仮称)(300名)(予定)
- 生活科学部
  - 食物栄養学科(40名)
  - 生活環境学科(40名)
  - 生活経営学科(募集停止)
- 大学院(修士課程、若干名)各学部に設置
- 附属図書館
- 外国語教育センター
- 事務局
  - 総務課
  - 会計課
- 学生部
  - 教務課
  - 学生課
- 新設：

完成予想全体図

【施設面の整備】

新学部の増設などに伴い、大学の敷地を拡張し、校舎・図書館・体育館・プールなどを整備するほか、新しく第二グラウンドの整備も計画しています。さらに、図書館の情報化や学術情報ネットワークへの加入、及びキャンパス情報ネットワークの整備など、大学の情報化を推進する計画です。

島原港との間にフェリー就航

熊本港三月一日開港

今年三月一日、熊本市白川河口南側に、熊本港が開港しました。また、同日、熊本港～島原港の間にフェリーが就航、島原へ向けての交通の便が飛躍的に向上しました。

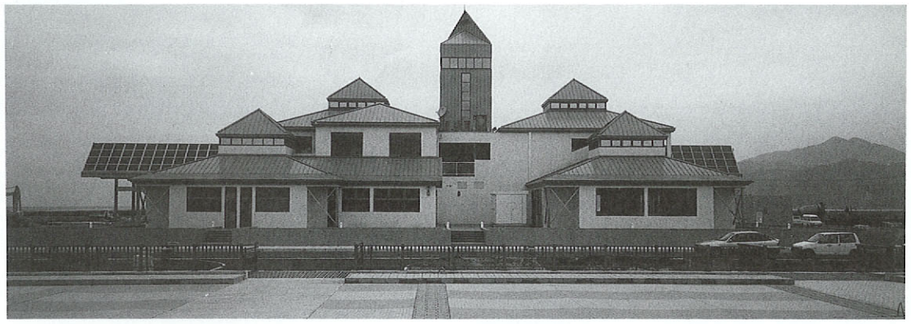
同港は、レクリエーションや生産機能を併せ持つ、人工島による沖合いの港として昭和五十四年に着工しました。今回は、総面積一三七㌶のうち、フェリー岸壁、ターミナルビル等の五・四㌶が完成、供用開始となったものです。

フェリー岸壁は、千㌧級の船舶の接岸が可能で、現在、島原港との間で、九州商船株式会社により、一日往復二十四便が運行されています。所要時間は約六十分、これにより熊本市内から島原方面への所要時間が大幅に短縮されました。

また、ターミナルビル(写真下)は、二階建てで、一階に発券所、レストラン、売店、二階に喫茶店、管理事務所が入り、旅客の便を図っています。

熊本港は今後、全体計画の完成を目指して、次のような整備を進めていきます。

①最大一万五千㌧級の船舶が停泊できる埠頭を含めた公共埠頭の建設
②マリンレジャーの要請に応え、海水浴場、海浜公園、マリーナ等の整備
③海上輸送による低コストを背景とした、流通加工型工業立地
④首都圏、アジア地域を見据えた物流の拠点としての整備



やすらぎのフライングライト

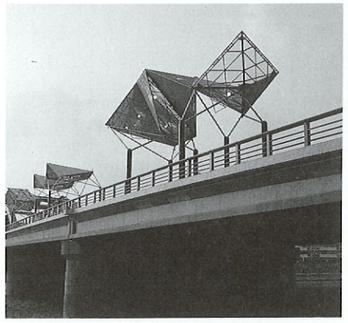
白川橋景観整備

「牛若丸と弁慶」の五条大橋、「君の名は」の数寄屋橋、橋にまつわる話は枚挙にいとまがありません。二つの場所を繋ぐのが橋、でもそれだけが橋ではないのです。橋には夢とロマンがあるのです。

「ローマ人の橋は殿堂を平面化した建築の延長、日本の橋は道の延長」これは保田與重郎のことばです。

熊本駅前の白川にかかる白川橋は、大都市熊本市の橋を単に渡るためのものだけでなく、都市の風景を作り出し、市民に夢とやすらぎをあたえるものとして「くまもとアートポリス」の一つとして計画されました。

橋の東側に取り付けられた「光の多面体」は熊本の玄関口にふさわしく、新しい、熊本の風景として、市民や旅行者の心に残るものになるでしょう。



自分たちの暮らしがよく分かる

見て楽しめる統計資料二冊発行

県民生活の実態と県内経済の特徴や動向をまとめた「統計で見る熊本のくらし」と「統計で見る熊本の経済」の二冊が発行されました。

いずれも、B五判二色刷りで、グラフやイラストを多用しています。「熊本のくらし」は百四十三㌻で、出生から老後までの生活に関係のあるデータを、また、「熊本の経済」は百三十一㌻で、経済、景気、主要産業の動向を、それぞれ一般の方々向けに分かりやすく説明してあります。

ともに一部二千円で販売しています。県統計協会(096・383・1111内線3600)までお問い合わせください。